

平成28年度 第2回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 次第

日時:平成28年11月10日(木)

午後1時30分～午後4時30分

場所:釧路市役所 防災庁舎5階

災害対策本部室

1. 開会

・委員11名中8名出席につき、会議が成立していることを確認

2. 副市長あいさつ

3. 議事

(1)人口関係データについて【資料1】

事務局より、【資料1】をもとに説明あり。

委員より説明内容について質問・意見あり

< 以下、質疑応答【○…委員 ■…釧路市】 >

○資料1①における将来推計人口、人口の将来目標(総合戦略)、国勢調査実績グラフをみると、平成22年から27年の間のいわゆる減少率が大幅に緩やかになっていて良い傾向とは思いますが、市の施策でどういうところがここに影響を及ぼしたと思うか。

■大きな要因の一つとして雇用環境の改善があったと思われる。ここ最近の2～3年で、有効求人倍率が大変好調であり、また、地元就職を希望する高校生の就職率がほぼ100%となっている。また、平成22年において景気が悪く、管内の企業の経営もかなり厳しい時期だったと本市としてもとらえていたので、そこからの比較をすると減少率が緩やかになったと考えられる。また、地元に対する愛着心というものが、高校生や大学生の就職のタイミングまで育成・醸成されてきていると考えられ、その結果が年齢階級別の比較において、3.7ないしは4.7ポイントの回復というのが見て取れると思われる。

○今後は、これに対する分析を詳細に行っていただければと思う。

○人口流出の件で、親からの相談で多いのは、本来は札幌の専門学校や大学に進学させたいが、進学費用が準備できないというものもあった。これは、都会に進学する費用がないため、消極的に釧路に残らざるを得ないというマイナス面も背景にあるのではないかと思う。

○平成22～27年のデータをみると、15～19歳から20～24歳になるとき、そして、20～24歳から25～29歳になるところで人口の減少幅が少なくなったということは評価できると思われるが、マイナス幅はまだ大きいので、更なる努力が必要だと思う。注目すべき点は、その前後の世代で、10～14歳の世代が15～19歳になるときに、そして25～29歳だった人たちが30～34歳になるときにプラスになっているところが非常に明るい兆しだと思う。ただ、その増加の理由が、消極的

な要因なのか、そのほかの要因があるのか等を分析する必要があると思う。プラスの面についてはそれを伸ばす、マイナスの面があればそれを解決するという手だてを講じる努力が必要となると思う。

(2) 総合戦略の数値目標と施策の進捗について 【資料2】【資料3】【資料4】【資料5】

事務局より、資料2～5を用いて、基本目標ごとに説明

【基本目標1】についての委員からの質問・意見

○平成27年度の進捗度合を初めてみたが、おおむね計画通りに進んでいるように思う。基本的にKPIの数値が少ないと思われるところもあるが、中小企業の小規模事業者の競争力の強化というところなどは、現在 18%で、今のままの伸び率では到底届かないと思われる数値もある。こういうものについては具体的な施策の見直しが必要と思うが、どう考えているのか。

■ご指摘のあった資料4の2ページ目のイ. 創業・第2創業支援等は数値が低いのではということであるが、ここの部分の数値目標については累計を持ってきているため、ここから積みあがるといった形になる。実態としては、最近、新規創業の事業者が増加していることもあり達成可能だと考えている。目標の創業支援者数の累計で5年間1300としているが、現在のままでは達成は厳しく見えるかもしれないが、担当課には専任の経営指導、相談をする担当者を増員して、現在対応にあたっており、ワンストップ窓口として補助制度も含めたトータルな創業支援を平成27年度から始めたところから、平成28年度以降には増加がみられると考えている。

○地域経済を支える中小企業の小規模事業者支援について、楽天やインターネット通販を使い始めるころがあったとのことで、応募件数が何件かあるとの話だが、中小企業においても経営者や社員の高齢化がみられるため、インターネット等にとつきづらいということが増えていると思う。事業者が直接行うのではなく、釧路市が仲立ちするとか、何か枠組みがあって申請したらICTについては出来上がるという取り組みを進めていったらよいと思う。

■楽天については取り組む事業者数がまだ足りないと考えている。釧路市の企業はご指摘のとおり、中小企業の割合が7割を占めているので、これは委員のご助言のあったことも踏まえて考えていく必要があると思う。ネットでのノウハウの取得については、小売については楽天において「楽天大学」というものがあり、一昨年の実績で十数社の事業者が参加しており、2年間、イーコマースについて学習するものがあり、ウェブでの物産、自分のリアルな店舗をどうするかということも学んでいる。釧路の特徴として、モノづくりの事業者が多く、製品をそのまま売る小売業というよりは、他の業者へ納品するという形が多い。そこへの支援というのも必要だと考えている。

○金融機関から見ると、企業が設備投資について前向きになっていないというのが現実である。そういう中、補助金や利子補給が付くとなるとイーコマースに投資しようという動きが出てくることが多い。釧路市の融資制度では、3年間は利息を企業が払わなくて良いということになっており、利用者は設備投資を考えるようになる。今後是非続けていただければと思う。金融機関でも、ものづくりテクノフェアや北海道の「ものづくりEXPO」等に釧路の事業者8社が参加する。金

融機関もそうだが、こういう機会を市としてもPRしてもらいたい。

○資料4の4ページ地域の未来を担う子ども・若者の人材育成の箇所の目標数値が100%になっている根拠は何か。

■目標値が若年者の就職者数というところで、平成27年から31年までの累計値を100人としてKPIを置いており、その100人に対して平成27年が21人だったことから、21%という形になっている。ここは、単位の説明がうまく記載できておらず申し訳ない。

○100人の根拠は何か。

■100人の根拠は、商業労政課で行っている若年者の就労支援の結果、就労につながった実績や、それからのプラス要素を見込んだものと考えられ、例えば年間20人と考えれば5年で100人という形と思われる。

○5年間の就労支援事業で、例えば訓練や講座、セミナー等やっているのは把握しているが、その集客部分やその参加者の状況というのを把握するのが重要だと思う。

■若い人達が働けないのか、そもそも働く意欲がないのかという質感が色々あると思う。一方、企業側に話を聞くと、パソコンひとつ使えない若者が増えてきていて困るという声があったりする。我々も参加する人を選別するというわけにいかないため、就労に関係する機関と連携協力して、本当に若い人達の就労につながる取組をやっていきたいと考えている。

○資料4のイの創業・第二創業の支援で、釧路市としては新たに農業で起業するという動きがあるのか。例えば、弟子屈がイチゴの生産に乗り出したという話を聞いているが。

■市として特定品目に注力してということは考えていないが、水産業においては担い手の問題がある。水産業は規制も様々ある中で品目に絞ってという話にはならない。ただ、魚の価値自体を上げるという取組は漁業組合でも行っており、釧路ではプライド鮮魚という形で消費拡大を目指している。その取組の一環としてプライド鮮魚カレンダーというものを今年度作成し、各月での魚の食べごろや獲れる時期などを見える形にしている。農業については、畜産系の農家が多いため、牛肉も含めて消費拡大を図っている。

○農業においては、東京ディズニーランドに使用するイチゴは全て弟子屈産のものにするということですごい産業となる。摩周ブランドに百貨店が注目しており、12月の贈答用にと、宮崎でマンゴーが取れない時期に摩周マンゴーを使用するというので、百貨店専用の商品を作らせるといったような産業が生まれる中、釧路市としてもノウハウを広げていくような民間に対しての支援等を行っていただきたい。

■釧路市においては丹頂イチゴがあるが、釧路では野菜はこれから取組を増やしていければと思っている。いただいた意見については担当部署にしっかり伝えていく。良いものを作ることに對しては一生懸命取り組んでいるが、その良い物にどう付加価値をつけていくかというところを考えていきたい。

■先ほど資料の説明の中で申し上げたが、パプリカの野菜工場が立ち上がったところである。パプリカはその9割が外国産であり、その市場にどれだけ食い込んでいけるかという視点をもって事業者が取り組んでいる。そういうところに支援をしっかりしていきたいと考えている。丹頂イチ

ゴも先ほど説明したが、かなり先駆的な取組であり、こういう新しいジャンルが出てくることは、産業連関的にも今までの市場にないものを新しくつくることが経済効果として大きいものになると考えているため、積極的に展開していきたいと考えている。

【基本目標2】についての委員からの質問・意見

○資料5の1ページ目で、「釧路らしさを活かして人を呼び込み・呼び戻す」とあり、都市経営課において平成27年に実施した「くしろ地域政策本」というものを作成しているとのことだが拝見したことがない。説明を聞くと、取組として良い物を作ったと思っており、実際に19大学に配布されたということが、観光振興室と連携してもらえればと思った。こういう物を道外にある旅行会社に配ったりすると、先方としてはこれを用いてくれて、直接営業をしなくても何かしてくれるというところがあると思う。地元の空港会社や旅行会社にも周知していけばと思う。

■政策本は釧路市だけではなく、定住自立圏や釧路管内の公共政策に関する取り組みを色々と集めて紹介している。今年は関東学院大学がゼミで釧路に来ていただいたが、公共政策の分野だけの取組であったので、もう少し幅広い大学のゼミ合宿につなげていければと考えている。観光振興室とは既に連携を取っており、MICEに位置付けて、市のHPから観光の項目をクリックすると観光コンベンションのMICEのメニューに政策本のパンフレットは掲載している。ご指摘のように旅行会社のPRはしていないので今後行うことを検討したい。

○委員に一部ずつ配布いただきたい。

○長期滞在者が年々増加しており、リピーターが増え、そこからの口コミもあるということで、予想以上に増えていく可能性を含んでいると思う。しかし、キャパシティ、つまりトイレや宿泊施設等の整備について、増加する需要に今後どう対応していくかという計画などは持ち合わせているのか。

■釧路の長期滞在が伸びている要因として、ビジネス研究会という不動産業やホテル業、またタクシー業界等の関係者を含めて、そこに行政が参画し、協働して取り組んでいるため、長期滞在に来られる方にとっては行政が関与しているという安心感があると思う。一方、ホテルなどの客室も埋まりつつあることから、最近の取組としては、個人のオーナーマンションやアパート、つまり不動産業者が持っているものではなく、個人オーナーが持っている物件の改修費の補助を去年から予算をつけており、少しずつ増えてきている。しかし、長期滞在者は身体ひとつで来るため、部屋にも家具などが揃っていないと不自由だという声も上がっている。不動産業者の課題としては、長期滞在者が滞在する季節によるところであり、夏場は貸し出す物件が足りないくらいだが、冬場が閑散期に入るということで、一年中物件を貸し出すことができないため、長期滞在者に対しての物件を回せないという問題がある。この点については、花粉ゼロの快適性を冬場のキャッチフレーズとして閑散期を埋めようという試みをしている。サテライトオフィスのPRも併せて行っていきたい。都市型の長期滞在を行っている自治体は少ないため、長期滞在の伸びがあるのだと考えている。民泊等の話が国等で進んでいけば、キャパシティの状況も変わる

と思われる。

○資料5の2ページで阿寒地域振興課の事業が平成27年度で終了と書かれているが、今週、道の駅がオープンしたところであることから宣伝などを積極的にすべきと思うが、これは振興公社に任せたという意味で、市の事業として終了したのか。

■これは、我々の記載の仕方に問題があった。予算事業が終わったということだけであり、決して阿寒の道の駅を含めてPRを行わないということではない。

○予算はついているのか。

■PRのための予算というのは、期成会という組織の枠組でもっており、利用促進においてもこの枠組で動いてもらっている。道路期成会では道央道の輪厚でPRを行っており、釧路総合振興局と道東エリアの誘致促進協議会という形のなかで道東道全体の活性化という運動にシフトしていくということで、市の事業課としては終了という意味合いで記載したが、誘致等をやらないというわけではない。

■道東道の利用促進事業という形では終了ということで、あくまで今後も道の駅の利用促進も含めて、更なる交流人口の誘致を進めていくということで考えている。取組を紹介する資料の記載方法については、来年度に向けて整理していきたい。

■道路の看板を取り付ける等の意味の利用促進は終了したという意味である。そうなるとうしてもこういう書き方になってしまった。申し訳ない。

○阿寒インターから誘導する仕組みが必要だと考える。道の駅を運営するのは公社となるが、今後どう活動していくか気になる。

■おっしゃる通り、誘導する方法は必要だと思う。担当課にも申し伝えておく。

○旭川・帯広間で設けているガーデン街道等、一つのテーマで分りやすい道があるが、釧路・根室地域にも一つのテーマで何かあればと思う。食の街道という形でメッセージ性が強いものがあればと思うが。

■ガーデン街道は全道的に配置している。開発局の関係でいけば、シーニックバイウェイということで、阿寒・摩周・釧路で国道240号を中心に展開している。インパクトは弱いと感じている。

○ターゲティングが必要だと思う。国内のターゲティングでいえば、高齢者が自分で車を運転してというのが難しいので、バスチャーターなどで一つのテーマで周遊できるモデルがあればガーデン街道のように観光客増が見込まれるのではないか。

■検討する。

【基本目標3】についての委員からの質問・意見

○KPIを見てもわかるが、子育て支援にかなりのボリュームを持ってあたっていることには感謝している。ただ、近年、各自治体も子育て支援のPRに意欲的に取り組んでいる中、鶴居村が釧路市に来て、子育て支援のPRをして移住の促進を行っているなどをみると、釧路市のPRの仕方が足りないのではないか。釧路市として取組をどういう形でPRして、外から子育てに繋がる若

い人たちをどうやって呼び込むかについて考えていくべき。児童館の利用状況については、利用者が非常に多い。それは市の取組の一つである年齢拡大によるものでもあり、利用者が増加していることは良いとは思いますが、反面、児童館に行くと収容人数が飽和状態である。この状態を解消せずに、ただ数字が上がったので良いという話題にされると疑問に感じる。空き教室利用では、国の支援を受けて教育委員会が興津小学校でおこなっており、放課後教室の利用や民間委託という選択肢もあると思う。是非、児童館の定員問題を解消していただきたい。

■子育て支援についてはご指摘のとおり、支援策の充実に向けて取組を進めてはいるが、PRまで手が回ってないというのが事実である。子育て支援について釧路は充実しているので、庁内で連携を持ちながらPRについて検討していきたい。お話しにあがった興津小学校については、元来釧路市は1学校区に1つの児童館を置くという方針できたが、学校統廃合により、児童館が遠くなったため、厚生労働省と文部科学省の共同のモデル事業として放課後児童教室という形で行っている。現在、学校の児童数は減少にあるが、使われなくなった教室を多目的利用に転用するなどしているため空き教室というものがないが、今後、人口減少と少子化が進むため、その利用についても検討していく必要があると思っている。また、現在、公共施設の統廃合を進めているところであり、児童館と町内会館等をあわせて複合化等も図っていくことを考えている。障がい者のデイサービス利用なども最近増えてきているほか、発達障がい等の子供たちも小中学校で増加傾向にあるが、それは幼稚園・保育園の未就学の段階でも既に現れてきているとのことでもあり、このような特殊な教育環境の整備も踏まえて整備を進めていく必要があると考えている。

【基本目標4】、【基本目標5】、及び全体をとおして委員からの質問・意見

○市立病院について伺いたい。最近、市立病院において、新規の受診がかなり難しいとの話を何人からも聞いている。精神科が新患を受け付けておらず、2～3か月待ちという状況であり、また、必要な福祉サービスにもつながらないということで、帯広や札幌まで出向いているとの現状がある。市立病院の改築・増築が予定されているが、需要が高い精神科等の受け入れ態勢の拡充も予定しているのか。

■病院の新棟増設に向けて進んでいるが、現在の精神科棟はそのまま残る形になっており、病床数については変更の予定はない。この増改築については、道内の三次医療圏についての議論を踏まえて病床数の見直しを行っている。市立病院自体の全体の病床数は減少する形になるが、精神科の病床数に変化はないため、新規での受け入れについては変化がないと思われる。北海道全体の医療計画があり、市や自治体だけの医療の増床は簡単には出来ないのが実情であり、全体的に病床数が増える想定はしていない。

○フェリーの誘致について、夏季だけでも東京から釧路のフェリーが何便かあれば、避暑を目的とした子ども達が釧路に来られると思うが、採算がとれないか。

■フェリーは貨物が主要であることから、人だけでなく物量の点から考えて、釧路港をどういう拠

点にして、どういう物を取り扱っていくかも考慮していかなければならなく、港湾関係者が様々な議論をしている。バルク港として施設整備を行っているが、物流量が増えていけば、その中でフェリーも見込めるかという議論が湧き起ると思う。地域としてもこの点に関して色々と検討していく必要があると考えている。

○総合戦略の評価は今回初めてということで試行錯誤し、ご苦労されて行われたというのが見て取れる。来年度の評価に向けては、基本目標には数値目標、施策に対してKPIという指標を用いて、取組の進捗や、各部署でどのような取組をしているかをご説明いただいたが、評価というものは基本目標がどこまで実現したのか、そして、基本目標のもとに施策がどこまで実現したのかということをお聞きしたいと考えている。例をあげると、基本目標1では「釧路らしさを生み出す農林水産業の成長産業化」から「地域を支える人材育成」までの7つの施策が、それぞれどこまで実現して、基本目標1の「地域経済のプラス成長と雇用の創出を図る」というところがどこまで進んでいるのかを定性的でもよいので示してほしい。また、最優先課題、重点目標等を置いているが、それがどこまで実現したのかも知りたいと思う。取組の紹介ではなく、その結果どこまで進んできているかということを知りたい。前回の第1回会議でKPIの評価を数字だけで見ると外部環境によって大きく変化することから、どのような取組をおこなっているかもあわせて評価したほうが良いということをお話して、その助言を反映しようという努力はみられるが、評価にあたっては、3つの視点の掛けあわせが重要だと思う。一つは、外部環境の変化、民間と市民の取組、行政の取組の3つの掛け合わせで評価ができると考えられる。「釧路らしさを生み出す農林水産業の成長産業化」では、それを巡る外部環境の変化、その下で民間や市民がどのような取組みをして、行政はどのような取組みをしたのか。そしてその結果として、どこまで実現できたかを全体として示してもらえると分かりやすいかと思う。それに加えて、取組を行う中で何が課題で今年度どう取り組んで課題を把握したか、それを踏まえて来年度以降どう展開するかがあると良いと思う。今回は評価のために評価をしている感じがするので、評価をした上で、目標を実現するためにどう取り組んでいくべきかという議論をする場が持てることが有意義だと思う。来年度以降はそういうところに配慮していただきたい。最後に、今回の評価は総合戦略の実現度合のチェックと同時に、総合戦略そのものの在り方のチェックであるかと思う。総合戦略は柔軟に見直すということになっているので、KPIがこのままで良いのか、施策がこのままで良いのかという委員のご意見を踏まえ、KPIの見直しや施策の改廃、新たな取組の追加の提案があれば、我々もそれに助言していけると思うので、次回からそういうことの是非も考えて資料を提示して活発な議論につなげていきたいと思う。

(3)その他

事務局より、釧路わかもの△カイギの取組を紹介

4. 閉会